

⑧ 乳牛の生涯生産性向上を目指した飼養管理技術の開発(H20~23年度)

実施主体：畜産試験場

担 当：家畜研究部酪農研究 G

1. 研究の目的・必要性

乳牛の泌乳能力[※]の向上に伴い、泌乳に要する栄養を確保するため栄養価の高い濃厚飼料を多く給与している。しかし、濃厚飼料の多給（高蛋白質栄養状態）は、疾病や繁殖障害を増加させ、乳牛の供用年数を短くする一因となっている。そこで、県産飼料米・稲発酵粗飼料を活用した低コスト・低蛋白質飼料による乳牛に負担の少ない飼養管理技術について検討する。その結果、一生のうちのお産数を増やすことで生涯乳量を増加させ、酪農家の経営安定を図る。

※牛が牛乳を出すことを泌乳といいます。泌乳能力の向上とは、牛がたくさん牛乳を出してくれるようになることをいいます。

2. 研究項目・内容・年度計画等

研究項目	研究内容	実施年度			
		H20	H21	H22	H23
乳牛に負担の少ない低蛋白飼料給与技術の開発	低蛋白質飼料を給与したときの乳牛の生産性と健康性を調査し、良好な蛋白質水準を検討する。	←→			
	第1胃内の微生物が増殖しやすい濃厚飼料の組み合わせを検討する。		←→		
飼料米、稲発酵粗飼料等を用いた低コスト・低蛋白質飼料給与技術の開発	低コスト化を図るため、飼料米や稲発酵粗飼料をどれくらいまで給与しても、乳牛の生産性に影響が出ないか検討する。		←	生産性、健康性の調査 (採食量、泌乳量、乳質、繁殖・疾病状況等)	→
					←→ エコフィード活用

3. 期待される成果等（成果目標）

- ・平均産歴の向上 2.3産 → 2.7産以上（全国平均）
- ・泌乳持続性の確保による生涯産乳量の増加 15%の増加
- ・飼料費の低コスト化 飼料費の1割低減
- ・成果の普及方法：飼養管理指針を作成し、普及サイドと連携し、講習会・現場などで農家指導を図る。

4. 予算額 3,495千円（一般）